

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL
MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No. 141
2022.12.2



雅楽文様振袖

企画展

れきはく コレクション 2021-2022

令和4年(2022) 12/10 (土) 》 令和5年(2023) 1/9 (月・祝)



れきはくコレクション

2021-2022

企画展 開館日時 令和4年(2022) 12/10 (土) ≫ 令和5年(2023) 1/9 (月・祝)

9:00-17:00 ※展示室への入館は16:30まで
※令和4年12月28日(水)~令和5年1月3日(火)は休館

会場 石川県立歴史博物館 特別展示室・企画展示室

【観覧料】 一般/300円(240円)
大学生・専門学校生/240円(190円)
高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金/65歳以上は団体料金
上記の料金で常設展もあわせてご覧いただけます

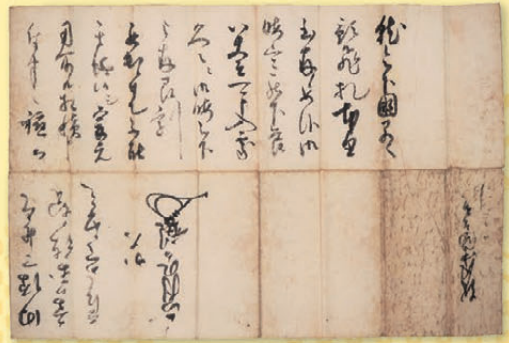
関連イベント 学芸員による展示解説
申込不要/要観覧料

日時: 12月21日(水) 13:30~14:30
解説: 当館学芸員
場所: 特別展示室・企画展示室
定員: 20名(当日先着順)



附・黒漆塗千段鞘合口拵

諫鼓鶏文様打掛



前田利家書状_越後中納言宛



孔雀文様花瓶

短刀 銘 [表] 清一 [裏] 明治二二年二月吉日



恋路浜より蛸島迄之惣図・三崎高勝寺高座山大宮司等惣図 (部分)



獅子頭



天神堂



石川県立歴史博物館では、石川県の歴史と文化に関わる資料を体系的に収集していますが、その大部分は県内外の皆様からの寄附によるものです。令和4年には一覧表のとおり3334点の資料を新たに収蔵することができました。この企画展では、ご寄附に対する感謝の意を表して、令和4年の新収蔵品と、館内の改修工事の影響でお披露目できなかった令和3年の新収蔵品を一堂に公開します。

石川の考古学研究の礎を築いた橋本澄夫氏が調査の際に記録した資料や、加賀藩前田家の初代・利家が上杉景勝に宛てた書状、金沢工業学校（石川県立工業高等学校の前身）で活躍した教師の作品、金沢の和菓子店で使用された金花糖の木型など、石川県の考古・歴史・民俗・美術に関する資料を、当館の資料と関連付けて展示します。

最後になりましたが、貴重な資料をご寄附いただきました皆様にご心より感謝を申し上げます。

2021-2022年新収蔵資料一覧

(受入順、敬称略)

資料名	点数	寄贈者
北國夕刊新聞付録 当選十美人	1	(購入)
「聖教新聞当撰高点十二美人」絵葉書	6	(購入)
恋路浜より蛸島迄之惣図・三崎高勝寺高座山大宮司等惣図	1	(購入)
鈴木華邨旧蔵資料	84	(購入)
橋本澄夫氏調査資料 (追加分)	70	橋本 澄夫
掛軸 (春暁花冠之図)	1	中山 安子
図案 (写生図)	4	〃
木彫皿 (組皿)	20	〃
紋付 (小)	1	〃
日本画木版集	31	〃
写真アルバム	3	山本 啓史
達如版 五帖の御文	1	中井 恵子
蒔絵硯箱 [和歌の浦声]	1	〃
和讃卓	1	〃
掛軸 [関羽之図]	1	中山 安子
掛軸 [寒山拾得図]	1	〃
上絵壺	1	〃
上絵組皿	6	〃
図案帖	3	〃
大日本窯業協会雑誌	1	〃
江戸名所之図	1	〃
友田家文書資料	2	〃
友田安清肖像写真	1	〃
短刀 無銘	1	貞包 利文
前田慶寧書幅	1	〃
西郷隆盛書幅 (印刷)	1	〃
四高生写真アルバム	1	豊秋 博子
アイヌ衣装	2	北潟 宣治
海図	10	〃
小型船建造図面	11	番匠 博和
大日本交通全図	1	〃
薬種商看板	1	森田 正人
サイ衝立	1	〃
金沢城絵図幅	1	白川 誠治
前田利家書状 越後中納言宛	1	鮫島 和子
水墨山水幅	1	(購入)
孔雀文様花瓶	1	(購入)
能登名跡志	5	(購入)
茶もみ板	1	白尾 佳美
雅楽文様振袖 (附:几帳に桐菊模様丸帯)	1	中井 暁美
川端家資料	34	川端 敏久
久世コレクション	2519	久世 靖
古銃 (エンフィールド銃)	1	湧村 聰
きりん置物	1	清水 宣孝
久保田米俵筆 [仲國之図]	1	〃
田中一華・石川柳城筆 雑画帖	1	〃
中林竹溪筆 山水画帖	1	〃
広田百豊筆 [大和心]	1	〃
広田百豊筆 [雪中喜雀]	1	〃
女有職字文庫	1	〃
脇指 銘 [表] 播磨大掾藤原清光 附 黒漆塗千段鞘脇指拵	1	藤江 弘子
短刀 銘 [表] 清一 [裏] 明治二二年二月吉日 附 黒漆塗千段鞘合口拵	1	〃
刀装具類	31	〃
才家文書	14	才記 菊榮
ビラ・チラシ収集資料	224	〃
天神堂	1式	本部 誠一
菓舗「蔵回生堂」関係資料	33	蔵 裕子
古川農機具工業株式会社関連資料	8	古川 博之
獅子具	1式	豎町親交会
山刀	1	竹村 善有
西村松太郎収集資料	18	西村美智子
近代教育関係資料	42	堂前 雄平
金花糖木型	51	(個人)
赤絵金彩壺	1	中山 安子
婚礼関係資料	21	清水 宣孝
郷土玩具	3	〃
容斎歴史画譜	1	〃
松に旭日図屏風	1	〃
紺谷光俊ほか諸家貼交屏風	1	〃
皆川淇園筆書屏風	1	〃
大黒図 額	1	〃
狸々図 額	1	〃
諸家 色紙・短冊・扇面	29	〃
観堂堂廣瀬印房関係資料	4	広瀬次三郎

資料紹介

加州刀工最長の系統「清光」の新収蔵資料について

◆ 学芸員 野村 将之

令和4年には、非常に多くの資料を新たに収蔵することができたが、その中には特別展で注目資料として展示されたものも多い。企画展「れきはくコレクション2021-2022」では、考古・歴史・民俗・美術の各分野の新収蔵資料を、当館がこれまでに収蔵した資料と絡めてご紹介するが、ここではその中から、加賀で最も長く活躍した「清光」に関連する新収蔵資料をいくつかご紹介したい。

「清光」の刀剣については、そのご子孫より脇指と短刀をご寄附いただいたことは記憶に新しい。春季特別展では短刀しか公開できなかったが、今回はもう1振の「脇指 銘〔表〕播磨大掾藤原清光」も、研磨を施した上でお披露目する。この清光は江戸時代前期（17世紀中頃）に越中で作刀した刀工で、16世紀後半ごろに越中に分派した「清光」の流れをくむとみられている。播磨大掾を受領し、兄で近江大掾を受領した行光とともに活躍したと伝わる。この脇指は刃長50.8cm、反り1.2cmのやや細身のもので、刃文はわずかに尖り刃が混じるものの、歴代の清光が得意とした直刃を基調としている。当館が所蔵する接收刀剣（赤羽刀）の中にも播磨大掾清光の作とみられるものが1振あるが、こちらの刃文はゆるやかに波打つ「のたれ」であり、展示室で見比べていただければ幸いである。

また、今年ご寄附いただいた資料で興味深いものに、「清光」銘の山刀がある【写真1】。刃長45.3cm、反り0.7cmで、重ねが厚く片刃とするが、鑢による影響で刃文は不明瞭である。茎は鑢目を切、茎尻を片削とし、江戸時代以降の加賀の清光では典型的な仕立てといえるが、片削の角度はかなり深い。銘は刀身に2字銘で「清光」と切られるが、この銘は「清」の字の「月」の横画2本が通例とは逆に切られている点が特徴として挙げられ、今後の検討課題となろう。この山刀には拵が附属するが、拵や縁、頭、鑑など金具類を



【写真1】
山刀 銘 清光

すべて欠失している。柄には「三百九十七」「四ノ内」の墨書が、鞘の内側の拵が接する部分には「硯太右衛門／鞘 惣吉／金具 毘兵衛／柄 藤右衛門」の墨書【写真2】と、「安政□□／清光／三百九十七」の墨書【写真3】が確認できる。「三百九十七」の数字は山刀の茎にもみられるもので、この資料が膨大な備品のひとつとして管理されていたことがうかがえる。また、鞘に残る墨書からは、拵の製作に関わった職人の名と、拵の製作年代が判明し興味深い。この年代を山刀の製作年代にもあてはめるならば、12代と目される清次郎清光が活躍していた時期であるが、茎の形状や銘振りなど異なる点も多く、工房内の別の人物が製作した可能性も考えられる。検討課題は多いものの、拵そのものに職人の名が記された例は珍しく、刀工やその周辺の職人の組織を研究する上で貴重な資料となろう。

当館が所蔵する刀剣は、特別展「大加州刀展」の開催にあたって接收刀剣（赤羽刀）の多くが研磨され、整備が進められた。今後、展示など活用が広まるとともに、研究が深まることに期待したい。

なお、執筆にあたり小浦宗五郎氏（公益財団法人日本美術刀剣保存協会会員・刀剣等指導員）より助言を得た。



【写真2】 鞘の内側にある墨書(1)



【写真3】 鞘の内側にある墨書(2)

「北前船」って 考えれば考えるほどおもしろい

学芸員
コラム
Column

学芸主幹 濱岡 伸也

北前船きたまえぶねってよくわかんない、大嫌いだ！って、高校生の頃から思っていたが、今もその感じが抜けないなあ。本を読んでいるとイメージが崩れるんだよね。北前船＝北国船籍の船とか、買い積み船とか、大坂えぞちと蝦夷地を年に1回往復する船とか、そんな条件振り回しても何もわからんじゃないか……何も知らない高校生が抱いた疑問は、いまだに解決されていないよ。もともと「江戸時代は現代よりもずーっと遅れている時代」という、ふわっとした思い込み、そんな江戸時代の劣悪な条件の中で富を築いた北前船〔船主たち〕はすごい…的な物語に思えてならないのです。

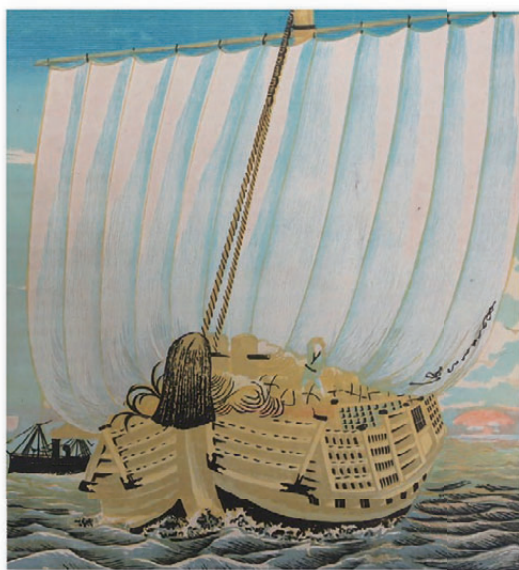
でも、古文書を読んでいると、真逆のような姿がいっぱい見えてきます。江戸時代、日本海航路には全国各地の船が往来していました。教科書通り春に大坂を出て日本海を北上して蝦夷地へ行き、秋の終わりに大坂へ戻る船がいます。すべての船が冬は大坂に置かれていると、漠然ととらえているような気がします。地域の資料を見ると、津軽や出羽、北陸などを春に出発して西行して大坂へ行き、秋に帰ってくる船や、北陸と蝦夷地を二往復する船、東北で冬を過ごし、春は蝦夷地や江戸へ行く船も少なくないことがわかります。

大都会で留め置くというのは経費がかさむんですよね。それよりも、地元で造った船なら地元で冬を過ごせばほとんど経費が掛からない。東北にも置けば、逆ルートの航行も可能になり、商いの幅が広がります。途中の湊で情報交換とか積荷のやり取りも可能。実際に5艘とか10艘とか持っている船主たちはそうした運用をしています。船主と乗員の故郷が違うというのもごくふつうのことだったのです。

経済の面でも、現代人が考える以上に江戸時代の情報は早く伝わっています。船が単独行動している

わけではなく、同じ船主〔廻船問屋かいせんどんや〕の店から陸を動き回って、湊の相場調査や荷物の売買をセッティングしていく商人が派遣されていることもあります。船同士で情報の交換も行われていました。この交流は、同じ船主・同郷に限らず、他郷・他国・異国でも行われていたようです。ライバル・商売敵という視点ではなく、シーマンシップ・船を生活の拠点として生きる者たちのお互いのために情報を分け合う姿が随所に見られます。

航海で得た現金は、千両箱に入れ船に積んで帰ると、海難の危険もあります。そこで為替かわせという手法で紙の証文に返還します。キャッシュレスです。証文は、折りたたんで懐中にしまえば陸路で帰ることもできるし、もし海難で消滅しても証文を発行した控えが残るので、保険にもなりますね。廻船問屋や船乗りたち、荷物の積み下ろしや売買にかかわった商人たちみんなで工夫してきたやり方は、現代社会のさまざまなしくみに直結していると感じています。北前船のこともっと調べてみませんか？！





近代刺繍教育の萌芽

《美術応用図好山生》

石川県立歴史博物館 普及課長
鶴野 俊哉

一、はじめに

石川県における近代刺繍教育の萌芽は、明治20年（1887）に開校した金沢工業学校と明治22年（1889）に県立となり校名変更した石川県工業学校の教育内容中に見ることが出来る。

今日、着物の装飾技法として友禅染が広く知られている。特に石川の地では、「加賀友禅」と称され着物や帯などの装飾に絶大なるシェアを誇っている。しかし、着物の装飾技法として加賀藩の時代に繁栄したのは、友禅染ではなく刺繍であった。

本稿では、近代を迎えることで存続の危機に立たされた石川の刺繍である「加賀繡」の復興を、教育の力で成し遂げた先人たちの足跡と先進的な教育内容を紹介する。

二、繡物料の設置

金沢工業学校開校当時、刺繍は「繡物」と呼ばれ、美術工芸部内に繡物料として設置された。初年度の入学人数は女子39名、男子1名の計40名であり、裁縫科、陶画科に次いで入学者が多かった。繡物の授業は幹事である川越政勝と師範職工である米山友二郎が担当した。川越は自身の刺繍工房に職工を雇用し、刺繍作品の制作にあたっていたと考えられ、明治24年（1891）には学校長であった納富介次郎（号：介堂）らとともに、石川県工業学校から分離独立させるかたちで金沢高等女子授産場を開設し、刺繍を中心とする女子教育に尽力した。

三、加賀繡と万国博覧会

明治26年（1893）に開催されたシカゴ・コロンプス万国博覧会には、金沢高等女子授産場が刺繍作品を出品している。石川県出品者としてほかに縫織商会在が絹刺繍団扇を、また、金沢工業学校で川越と米山から刺繍を学び、明治24年（1891）6月に石川県工業学校繡物料本科を卒業した金沢出身の明石正が刺繍額を出品している。受賞目録をみると、作品出品数は京都が最多であり、大阪がそれに続いた。明治を迎えることで加賀藩の庇護を失い、業界存続の危機にさらされていた加賀繡の再興を試みたのが納富、川越らであり、特に川越は、その後世界各国で開催された万国博覧会にも積極的に出品し、加賀繡の優秀さを世界に向けて紹介した。

明治33年（1900）に開催されたパリ万国博覧会には、石川県から川越と能沢文助が出品しており、西村総左衛門や田中利七らが出品した京都に続き、大阪、神奈川と並ぶ出品者数であった。

四、《美術応用図好山生》

和田重太郎（号：好山）は明治6年（1873）山代に生まれ、石川県工業学校で納富に学び、明治27年（1894）に開校した富山県工芸学校で助教諭、その後赴任した香川県工芸学校では納富に代わり校長心得をつとめた。和田は石川県工業学校で納富が主催した図案考案舎「迎藹苑」でデザイン力を磨き、工業学校卒業後も納富の依頼で様々な工芸品をデザインした。和田がのこした《美術応用図好山生》には、当時の繡物実習課題や陶磁器、漆器、木工品などのデザイン画が多数収録されている。【PL.1】



【PL.1】《美術応用図好山生》（個人蔵）

《美術応用図好山生》に描かれた刺繍（繡物）図案からは、単なる和様式の表現ではなく、海外様式を積極的に受容して日本の伝統様式との融合を図り、新たなデザインの創出を試みようとする積極的な態度がみられる。

【PL. 2】、【PL. 4】

明治44年（1911）発行の『石川県立工業学校創立二十五年記念校友会雑誌第十六号』に寄せた和田の所感には、以下の記述がみられる。

「～前略～ 本校当時の着眼は外国貿易の工芸品制作であった、納富校長は二回まで農商務省へ向って欧米各国へ工業視察員派遣の建白書を提出せられ其派遣員内には本校の職員及卒業生をも含まれて居つたのであるが矢張本省では採用の時機を得なかつた実に遺憾である斯の如く貿易を主眼とせられたものであるから自然其方に向つて研究したのである、畢りに望んで一言生徒諸君に希望するのは其目的である工芸は百般であるから中々一通りではないが外国向を研究するには金沢にも外国人が居るから現品について其図様、形状、用途、嗜好を研究し又近来大商店には物品目録を盛に出すから之を蒐集して研究するも亦一法である而して各国には夫々嗜好と流行があつて中々六ヶ敷事であるが大体に於ては大差がないので翻て内地の器什に致しても茶道では各流儀の好みあり冠婚祭には一定の法式があつて之を悉く習得すると云ふことは短日月の学校では不可能であるが初めから其心得がないと折角製作したるものがどちらも附かずとなると云う始末に陥るから各自其好む所の目的を立て研究を要するのであるが国運の進歩に伴ふて貿易と云ふことを念頭に置いて貰ひたいのである。」

和田の考案図案からは、デザインの応用力を高める目的で豊富な写実トレーニングを自らに課した様子が伺える。写実力とは、工芸制作にとって必要不可欠な要素であり、詳細観察を伴う写実トレーニングは工業学校の重要な教育内容の一つであった。工芸作家は豊富な写実経験を基に、アイデアの展開や工芸技術への適応性など工芸制作に必要となる諸要素を検討するため、写実経験の差が考案の質や作品の仕上がりなどに大きな影響を与えるからである。納富がデザイン思考力の育成とともに、写生や模写など写実系の授業を重要視していた理由がよくわかる。和田の写生帖である《動植物写生綴好山生》には多くのスケッチ画がこのように描かれている。【PL. 3】

五、おわりに

納富と川越らにより日本最初期に実践された刺繍教育は、金沢高等女子授産所を経て明治期「加賀繡」繁栄の礎を築きあげた。加賀繡の近代は、洋装文化を積極的に受容し、和装文化との融合を図ることで発展を遂げてきたという歴史的経緯がある。今後は、明治期以降の刺繍教育の実態についても調査をすすめたい。



【PL. 2】《延掛け繡物図》明治23年頃（個人蔵）



【PL. 3】《鶴》詳細スケッチ 明治23年頃（個人蔵）



【PL. 4】《縫模様花笠の鶴図案》明治23年頃（個人蔵）

催し物
案内
Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

12月 休館日：12/9(金)・12/28(水)～31(土)

15日(木) **古文書講座 (中期第3回)**
「能登天領のくらし」 講師：濱岡 伸也

17日(土) **れきはくゼミナール**
「北陸にもたらされた『蝦夷錦』」
講師：大井 理恵

1月 休館日：1/1(日)～3(火)・1/10(火)

21日(土) **れきはくゼミナール**
「加賀藩主 前田治脩」 講師：濱岡 伸也

28日(土) **館長講演会**
「徳川家康と関ヶ原の戦い」 講師：藤井 譲治 (当館館長)

2月 休館日：なし

18日(土) **れきはくゼミナール**
「加賀藩の藩校とその教育」
講師：中村 賢一

3月 休館日：3/28(火)～3/29(水)

18日(土) **れきはくゼミナール**
「鈴木華邨と北陸
—旧蔵資料の
収蔵を契機に—」
講師：中村 真菜美

れきはくゼミナール

毎月1回～2回、土曜日に実施。
当館学芸員が、独自のテーマを設定して講義します。

受講無料
当日先着順
全10回

いしかわ歴史講座

11月から1月、金曜日に実施。
当館学芸員が、常設展示の内容を中心にお話しします。

受講無料
当日先着順
全11回

12/16(金)・12/23(金)・1/6(金)・1/13(金)・
1/20(金)・1/27(金)・2/3(金)

古文書講座

当館学芸員が、古文書の読み方や内容を解説します。

受講無料
要申込
随時開催

館長講演会

当館館長が専門とする時代の歴史について、テーマを設定して講演します。

受講無料
要申込

令和
5年度

れきはくメイト会員募集

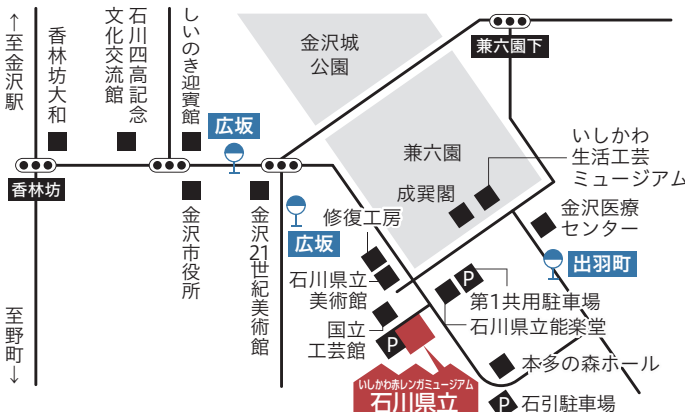
3月1日(水)より、令和5年度「れきはくメイト」の新規・更新受付を開始します。
「れきはくメイト」とは、石川県立歴史博物館をより身近なものとしてご利用いただくための組織です。ご入会いただくと、入館料割引や会員限定イベントへの参加、最新情報の送付など様々な特典があります。

会費 1,500円 (大学生以下 750円)
※10月以降のご入会は一般750円となります。

- 特典例**
- 1 会員証提示により、当館の常設展示を無料で観覧できます。
 - 2 会員証提示により、当館の特別展を団体料金で観覧できます。
 - 3 当館の最新情報を会員限定の情報紙でご案内します。
 - 4 当館が主催する会員限定イベントに参加できます。
 - 5 会員証提示により、当館発行の図録やオリジナルグッズを10%割引で購入できます。

申込方法 来館もしくは郵便振替でのお申込みとなります。

お問い合わせ 当館HPもしくは普及課(076-262-3417)までお問い合わせください。



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
https://ishikawa-rekihaku.jp/



Q.「こな納豆」はプロバイオティクス食品なの？
国内最古のプロバイオティクス！
生きて腸まで届く、芽胞状の納豆菌

「納豆菌」は結核菌の一種で、種の菌に多く生息しています。納豆菌は増殖に過ぎない環境になったとき、生きるための手段として耐久性の高い特殊な殻「芽胞(たばほう)」をつくります。「芽胞状の納豆菌」は熱や乾燥に強いので、胃液にも負けることなく生きて腸まで届くことができます。

「納豆菌」は、善玉菌として働きながら、乳酸菌のユサ(オリゴ糖)をつくり、乳酸菌が住みやすい環境を整えることで、乳酸菌を元気にします。プロバイオティクスとして毎日摂りたい善玉菌なのです。

フリーズドライで粉末化した「こな納豆」は、納豆の良質なタンパク質や、食物繊維、カルシウム、ビタミンKなど、納豆の有成分を余すことなく手軽に摂取できます。さらに、生きて腸まで届く「芽胞状の納豆菌」を、生の納豆よりも数多く効率的に摂ることができるのです。

毎日の腸活に!
低脂質・高タンパク質

カンタン! 美味しい!
ネバネバの納豆がまるごと粉末に!
パウチとかけただけでパランス栄養食だ!

こな納豆

ご題にかければ、味わいは納豆そのもの。味噌汁はたまちま納豆汁に、ほかにもヨーグルトやトースト、カレー、お好み焼き、オムライス、パスタ、漬物など、いつもの料理にかけただけでおいしくも栄養もアップ、新しい調味料としてどんな料理にも手軽に使えます。

通常タイプ
おいしめり粒入りタイプ

納豆風味が好きな方! お子様でも食べやすい!

◆ご注文はコチラから
受付時間: 9時～17時(休業日を除く)
☎050-1866-1658
そのもの株式会社
〒810-0023
福岡県中央区警固2-16-26 Ark M's-1 701

【オペレータに必ず「P11」とお伝えください】
●ご注文受付後、3日～7日間後でポストにお届けします。●お支払方法は、「クレジットカード」、または「後払い(コンビニ・郵便局/手数料200円(税込))」。●送料全国一律280円(税込)
●お客様理由による返品・交換は致しかねます。万が一不具合や誤配達の場合は、未開封の場合に限り商品到着後7日以内にご連絡の上ご返送ください(返送料弊社負担)。※お預かりした個人情報、商品の発送や当社製品ののご案内以外には使用いたしません。